高田教区宗祖親鸞聖人750回御遠忌

御遠忌通信

創刊号

発行日　2012年2月15日
責任者　杉本　了恵
編　集　御遠忌広報実行委員会
連絡先　真宗大谷派高田教務所
上越市寺町2-24-4
TEL: 025-524-3913
FAX: 025-524-2645

教区御遠忌広報紙発刊にあたって

高田教務所長　**杉本　了恵**

このたび、高田教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌（以下「教区御遠忌」と表記）に向け、その進捗状況をお知らせするため、広報紙「御遠忌通信」を発行することになりました。これは、本紙が、教区御遠忌を、文字通り教区挙げてお勤めすることの一助となることを願ってのことです。今回、創刊にあたり、ここでは、教区御遠忌の総計画案の策定に関する事柄を書き留めます。

まず、教区御遠忌については、「高田教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌推進委員会」（以下「推進委員会」と表記）において審議され、総計画案が取りまとめられます。当然、その総計画案は、教区会・教区門徒会の審議を経て決定を見るわけですが、この二つの教区議決機関はもとより、教化委員会、坊守会、推進員連絡協議会、両別院など、教区の諸機関に携わっておられる方々によってこの推進委員会は組織されていますから、その審議過程において十分な論議が交わされ、教区御遠忌の全体像が作り上げられていくことになります。

次に、推進委員会には業務別に、**①儀式法要部会②記念事業部会③行事広報部会④財務部会⑤参拝部会**の５つの部会が置かれています。推進委員会の全ての委員が部会に所属しておられるわけではありませんが、これらの部会においてそれぞれの業務毎に企画や計画の素案が取りまとめられ、それらを推進委員会において確認、検討、承認することになります。

各部会の業務は、昨夏の教務所長巡回でお配りした「高田教務所報―２０１１年度版―」５０ページに推進委員会の規程を掲載していますから参照くだされば幸いです。

次に、推進委員会の委員とは別に、「教区御遠忌専門委員」と「教区御遠忌参事」という役職が置かれています。

まず、教区御遠忌専門委員ですが、これは、教区御遠忌の業務であって、特に専門的な助言を受ける必要がある事柄について、学識や経験を有しておられる方を推進委員会に諮り、就任いただきます。現在は、真宗本廟（本山）両堂等御修復委員会主任技術専門員（本山の御影堂・阿弥陀堂・御影堂門の御修復工事について調査や検討をお願いしています）を務めてくださっている「伊原恵司氏」に就任いただいています。

次に、御遠忌参事ですが、これは、高田選挙区選出の宗議会議員に就任いただきます。直接、推進委員会の議事表決には加わることはありませんが、宗派の状況などを踏まえたお考えなどをお聞かせいただきます。

最後になりますが、推進委員会は教区御遠忌の審議機関です。教区人各位には積極的にご意見をお寄せいただき、教区御遠忌が意義深いこととなるよう心から願うものであります。それと同時に、本紙発刊の願いを共にし、寺院内はもとよりご門徒の皆様にも本紙をご披露いただきたいと思います。それが、ご門徒から発せられる「情報不足」との声に応えることであり、寺院が担うべき大切な仕事なのではないでしょうか。

御遠忌推進委員会（2012年1月13日）

教区御遠忌に向けて

高田教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌
推進委員会委員長
北條　頼宗

三年前に委員長に就任致しました頃には、まだまだ先のことのように思っておりました「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌」が、皆様ご承知のように、昨年春京都の御本山に於いて勤まりました。また、十一月の御正当報恩講の御満座翌日には、阿弥陀堂御修復のために、ご本尊が御影堂内仮阿弥陀堂へと移され、本山においては「御遠忌後」へと歩みが始まったところです。

高田教区におきましては、これまで御本山での御遠忌に関するさまざまな取組みを行ってまいりましたが、これからはいよいよ教区としての御遠忌をお勤めするべく、昨秋頃から準備を進めてきております。

具体的な進捗状況は、それぞれの部会からの報告に譲らせていただきますが、私から申し上げさせていただきたいのは、「御遠忌」ということが、親鸞聖人のお念仏にご縁をいただいた私達一人ひとりにとって、どういうこととしてあるのかという、自らへの問いかけが大事なこととしてあるのではないかということです。

御遠忌とは、私たちに「称名念仏の道」を教えてくださった親鸞聖人を宗祖としていただき、その恩徳を明らかにすることによって、そのご恩に報いていく生活を一人ひとりが確かめていく、毎年お勤めする報恩講の五十年に一度の集大成と言っても良いのではないでしょうか。

そういう意味では、御遠忌についてはさまざまなことが取り上げられますが、結局のところ「私にとっての御遠忌とはいかなるものであるのか」、あるいは「いかなるものでなくてはならないのか」というところに帰着するのではないかと思います。

現在、教区御遠忌をどういうふうにお勤めしたらよいかということで、それぞれの部会で活発な論議がなされています。しかしながら、現在話し合われていることが、御遠忌の全てではありません。まずは急いで決めていかなければならないところを先に進めているのでありまして、特に法要の時期を早く決めて欲しいという要望や、高田別院の山門・新井別院本堂の屋根の御修復ということも、差し迫る問題としてあります。また、多くの皆様の関心は「いったいいくらかかるのか」ということであることも、今日の社会情勢・経済状況を考えてみましても、十分理解しているつもりであります。

それらのさまざまな課題に取り組んでいくと同時に、私達が親鸞聖人の門徒であるという事実に立ち返れば、親鸞聖人のお心にかなうような御遠忌をお勤めしたい、というところに原点があるのではないでしょうか。どういう御遠忌をお勤めしたいかということについては、このような広報で教区の皆様に情報をお伝えしていくことを通して、記念事業部会等を中心に、じっくりと時間をかけて、広く皆さんの御意見をいただいていきたいと思っております。

今更申し上げるまでもなく、昨年三月の御遠忌第一期法要の直前に発生した東日本大震災、さらに今も続く放射能の恐怖という、戦後これまで私達が経験したことのないような状況の中で、今も日々の生活に不安を抱え、苦しんでいる方々がたくさんおられます。

こういう時代であるからこそ、私たちは二〇〇七年にお勤めした「宗祖親鸞聖人越後御流罪八百年法要」の願いに立ち返り、どんな苛酷な権力からの弾圧にも屈せず、常に苦悩する民衆の側に立ち、「いなかのひとびと」とともにあった親鸞聖人のお姿に思いを馳せて、私たち一人ひとりにとっての集大成ともなるような御遠忌を教区の皆様と創造していきたいと願っております。

よろしくお願い申し上げます。

◆高田教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌
広報実行委員会

委員長　岩崎　修
副委員長　老野生一義
委員　田中　竜雄
上宮　崇
藤戸美帆子
竹田　知里
矢嶋　一樹

御遠忌テーマ

アンケート報告

【アンケート内容】
Q1. 「教区御遠忌テーマ」について、具体的なテーマがあればお書き下さい
Q2. 「教区御遠忌テーマ」において、取り上げるべき課題や視座についてお書き下さい
Q3. 「1」・「2」以外で、「教区御遠忌テーマ」に関するご意見

このほど高田教区内の寺院・ご門徒に対しまして、「高田教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌テーマ」に関するアンケートを実施いたしました。皆様方のご協力により、６６人の方々からご回答いただきました。ここで主なご意見を紹介いたします。

【Q1】具体的なテーマ

本設問に回答していただいた方の半数以上が、現在の教区御遠忌テーマである「流罪からの出発―私はどこでいきているのか―」をこれまで通り継続したらよいのではないかというご意見、もしくは「流罪」というキーワードを取り入れたテーマを提案するものでした。このようなご意見が挙がるのは、流罪の地・上越が親鸞聖人ゆかりの土地として私たちが親しみを持っており、さらに高田教区では御遠忌お待ち受けとして「越後御流罪八百年法要」を勤めてきたという背景もあることが理由として挙げられます。そのようなことから、現在の教区御遠忌テーマに対する評価は教区内において高いものと見受けられます。

一方、上記以外のテーマを考えていただいた方もありました。日常生活における問題・課題に取り組む姿勢、あるいは宗祖親鸞聖人の生き方や念仏の世界に生きる姿勢を掲げるテーマなどがありました。

【Q2】取り上げるべき課題や視座

Q1での回答にもありましたように、「流罪」というキーワードを積極的に取り入れていくべきというご意見が多くありましたが、その一方でもっとわかりやすく伝わりやすい言葉を使って欲しいとのご意見もありました。現在の御遠忌テーマにおいても、説明がないと理解しづらいという声が一部の方々から挙がっていますが、「理解しづらい」という事は、別の側面から見てみますと「関心が向く」ということに繋がることもあります。一方で説明がなくても理解できるテーマにするというのも多くの方に伝わっていく重要な要素でありますし、理解しづらいものに対してわかりやすく説明していくことは、そのテーマを策定し展開する側にとっての責任であります。いずれにしても、テーマ策定後についても、そのテーマを伝え続けていく事も課題となるでしょう。

この他、いろいろなご意見をいただきましたが、ここでは割愛させていただきます。

【Q3】その他ご意見

前問Q2での回答と同様に「誰にでも理解できるわかりやすい言葉で」というご意見が多数ありました。それ以外では現代社会における宗教に対する問題点を指摘し、それを課題として掲げていくことを提案するご意見がありました。いくつかのご意見を紹介いたします。

- 「非僧非俗」の考えを考慮してもいいのでは
- 現下の経済情勢を踏まえ、次の５０年を見据えたものであってほしい
- なぜ若者が真宗から離れているのか、組織として考えなければならない

その他のご意見も、教区御遠忌テーマ策定等にあたって参考にさせていただきます。

◇　◇　◇

教区御遠忌テーマの策定は、現在を生きていく私たちがどのような願いを込めて、この高田教区における御遠忌を勤めていくかを表明する重要なものです。このテーマを根幹とした御遠忌の厳修を通して、私たちが宗祖にどのように出遇い、宗祖の教えに触れていくのか、そして自分自身の生きかたやいのちの大切さなどを考える機縁に繋がることを期待しています。

御遠忌推進委員会の決定事項

高田教区では御遠忌記念事業の一つとして高田別院山門及び新井別院本堂屋根の修復を行うことを２０１１年１２月１９日の第２回推進委員会で決定しました。それに伴い、御遠忌法要は２０１７年の秋、もしくは２０１８年の春に勤まります。なお、これらも教区会・教区門徒会で審議の後、決定します。

■高田別院の山門、新井別院の本堂の屋根修復

これまで２回にわたり、伊原惠司氏（教区御遠忌専門委員）に両施設の目視調査をしていただき、現状の把握が行われている。その結果は、本年１月１３日に開催した教区御遠忌推進委員会で伊原氏から報告された。今後、本調査を実施し、修復の具体的方法や経費が審議される。

調査の内容からしても、高田別院の山門、新井別院の本堂屋根の老朽化は目に見えており修復は必要である。古くから慣れ親しまれた建築ではあるが、参拝者の安全を考え、後世に残していくからには今回の御遠忌に併せて修復しなければならないだろう。

今回の教区御遠忌にあわせて修復をすることによって聞法道場としての意識の高まりにもつながる。御遠忌の記念事業として修復を行うということは、後世にも伝えていきたいという願いの顕れでもあろう。教区という一つのまとまりの中で高田別院、新井別院共に高田教区の別院であることを意識し、聞法に励んでいきたいものである。

なお、高田別院の納骨堂の老朽化も著しく、責任役員会及び常議員会において同施設の修復を記念事業として加えることが確認された。このことは今後、記念事業部会において審議がなされる。

■教区御遠忌法要　２０１７(平成２９)年秋、もしくは２０１８(平成３０)年春に執行

記念事業の総計画案は記念事業部会で、教区御遠忌の総経費や募財額、募財期間は財務部会でそれぞれ審議される。

現在、教区御遠忌法要は、高田・新井両別院の施設修復を終えた後、勤めることが確認されていることから、募財期間は２０１２年度から２０１６年度までの５カ年度が予定されている。このことから、教区御遠忌法要は、２０１７年秋、もしくは２０１８年春に執行することが教区御遠忌推進委員会で確認されている。

【法要の日程案】―７日間―

（高田別院３昼夜、新井別院１昼夜）

１日目　高田別院　逮夜
２日目　高田別院　晨朝　日中　逮夜
３日目　高田別院　晨朝　日中　逮夜
４日目　高田別院　●晨朝　●日中　●逮夜
５日目　教区記念大会　ご門首レセプション
　　子ども大会等
６日目　新井別院　●逮夜
７日目　新井別院　●晨朝　●日中

〔●印は御親修(御参修)〕

以上をもって今回の決定事項の報告とさせていただきます。以後の決定事項は広報実行委員会が紙面でもって報告することとします。

ひと休み

▼教区の御遠忌通信をお届けすることになりました。発行の意義などは紙面に紹介してありますが、ただ決まったことだけをお知らせするだけでなく、多くの皆さんとどのように御遠忌を迎えていくかを一緒に考えていくような紙面にしたいと考えています。不定期の発行ですが、いろいろご意見を聞かせていただければと思います。▼本紙は、寺院・組門徒会員・推進員を対象に配布します。創刊号は本紙を広く知っていただくため、組門徒会員各位に直接お送りしましたが、次号からは所属寺院を通じ配布させていただきますのでご了承ください。また、推進員各位には、教区推進員連絡協議会を通じ今後もお届け致します。▼本紙のタイトルは、教区御遠忌テーマを踏まえたものに今後、変更させていただきます。

（岩崎　修）

【表紙題字】藤戸美帆子